

## 地域との交流から 帯広国際センター・北方圏センター

### サッカーチーム「JICAマカレナ」 4戦全勝中(8/6)

サッカーチーム「JICAマカレナ」はJICA帯広の研修員と帯広畜産大学留学生が混成で結成しているチームで帯広社会人サッカーリーグの公式チームとして参加している。

今年度は9チームのリーグ戦で9月まで8試合を行う。去る8月6日(日)の試合にも勝って現在4戦全勝の快進撃を続けている。普段は帯広センター近くのローンの一部を借りて練習に励んでいるが、いずれもサッカー大好きな国々出身の研修員たちにとっては嬉しい行事になっている。

マカレナとはもともとスペイン・セビリア地方の教会で「悲しみの極みのマリア像」をいうが、スペインで生まれたダンス、音楽の名前にも使われている。このチームの結成当時流行っていたマカレナの歌や踊りに因んで名付けられたようだ。



勢揃いした「JICAマカレナ」

### 常盤中学校1年生来訪、国際理解教室開催 (6/29)

6月29日(木)の昼過ぎ、札幌市立常盤中学校の1年生24名が総合学習の一環として同校佐々木教諭の引率で北方圏センターを訪れた。迎えた北方圏センター交流部では職員が北方圏センターの仕事のあらましや、相手の国に対する「誤解」をもたないことを学ぶのが国際理解であることなどをわかりやすく説明した。

続いて北海道国際課の国際交流員のシェイン・クルマイクさん(アメリカ出身)が日本にやってきた経緯、国際交流員の仕事やアメリカの学校事情などを日本語で話した。生徒たちからは「北方圏」の名前の意味はとか、国際理解や国際交流をしていて難しいことはなど質問の手が挙がっていた。

シェインさんは、「国際交流をするにはまず話す機会を持って、コミュニケーションをとることが大切。自分のことや日本の良い所を教えてあげて下さい。そのためにも外国語を勉強して下さい」と生徒たちを激励した。また、日本では初めて会った外国人にいろいろ聞く傾向があるが、時間がたつて自然にわかるまではその人の出身などをすぐに聞いてはいけないと厳しい指摘もあり、限られた時間ではあったが中学生たちは真剣に聞いていた。



質問の手を挙げる中学生たち(旧北方圏センター国際会議場にて。正面議長席左がシェインさん)

## 北海道内の国際協力・国際交流団体から 地域の活動

### 札幌市厚別区で「北海道国際協力フェスタ2006」開催

—北海道NGOネットワーク協議会主催—

1998年にスタートした同フェスタは今年、札幌市厚別区中央市民交流広場(ふれあい広場)を会場に開催された。会場のステージで各NGOの活動紹介を行う中で、主催者の北海道NGOネットワーク協議会の宮村会長(「耳の里親会」)は、「国際協力フェスタはこれまで主に市内中央区の会場で開催してきました。今年の厚別区を1回目として、今後市内10区を回って一層地域に密着した国際協力フェスタにしたい」と抱負を述べた。

フェスタではJICA相談コーナーやNGO活動コーナーがデスクを出して国際協力に関心のある人たちへの説明にあたり、パネル展示での活動紹介がされた。また恒例の民族衣装ファッションショーやエスニックカフェ、音楽演奏で各国の雰囲気かわる催しに人気があった。

ふれあい広場は地下鉄駅と直結し付近には大型スーパーなどもある人通りの多い地区。広場中央にはフリーマーケットが店を広げてエスニックな衣料品や小物など販売していた。



厚別中央市民交流広場(厚別区)で開催された北海道国際協力フェスタ2006(7月2日)